

附属平野小・研究だより 第2号



平成 25 年 10 月 18 日
大阪教育大学附属平野小学校

大阪教育大学附属平野小学校の教師たちは、本年度、「学びを創り続ける子どもの育成」を研究主題に掲げ、その授業づくりに関する研究活動を推進しています。子どもたちに、自らの学びを継続・発展するよう促すことは、そう簡単ではありません。本校の教師たちも、子どもたちのそのような姿を求めて、試行錯誤を続けています。幸い、1学期の実践を経て、現在、いくつかの重要な支援方策を見出せています。この研究だよりは、そのエッセンスをお届けするものです。

例えば、理科では、その学習活動が総合的学習と接点を有することで、子どもたちの学びの発展可能性が高まっています。また、総合的学習では、探究の過程において多様な他者と交流することで、課題の再設定が実現しています。これ以外の教科・領域の授業づくりにおいても、「学びを創り続ける子どもの育成」に向けた実践が蓄積されつつあります。この研究だよりで、その一端を味わっていただければ、そしてその具体像を2月の授業研究発表会でご覧いただければ幸いです。

学校長 木原俊行

🌸 研究教科紹介 🌸

附属平野小学校の各教科の研究内容についてお伝えします。毎号3教科ずつご紹介したいと思います。各教科の研究テーマや、普段の授業においてどんなことを大切にしているかなどについてお伝えできればと思います。

🍀 理科 🍀

1学期の研究授業を振り返って

1学期は、3年生と5年生のそれぞれの学年で研究授業を行いました。どちらも子どもの学びの過程に着目した実践です。少しだけですが、ご紹介します。

3年生「風やゴムのはたらき」 視点：風の働きに対する感覚的な捉えを可視化する。

3年生にとって初めての実験です。風の働きで動く車の距離を測定し、進んだ距離をグラフに表しました。風の働きを数値やグラフの高さに置き換える活動を大切にして、実験結果を交流します。



車が進んだ距離を何度も測定し、それぞれのグループでおよその数値を決めました。

10グループの実験結果をグラフで表すと、風の強さが「強」「中」「弱」となるのにしたがって、車の進む距離が短くなるのが分かります。これまで感覚的に捉えていた風の働きの高さが、学級全体で交流することによって、はっきりと表れました。

5年生「ダッシュ村でメダカを飼おう計画」 視点：総合学習の中に単元を位置づける。

この単元は、総合学習「平野ダッシュ村」の活動と関連付けて構成しました。「ダッシュ村にメダカを飼おう」を共通の課題として授業を進めます。単元の学びが理科の教科の枠に留まらず、ダッシュ村での学習と往還するものであることをねらいとしています。

研究授業では、校内にある池の小さな生き物を直接観察したり、保存したりするためにデジタルカメラを用い、場に応じてスクリーンに提示して観察したことを共有しました。授業者がICT機器を扱っているのも、子どもへの直接的な支援をいかにしていくかが課題として挙げられますが、子どもは意欲的にタブレット型コンピュータなどを用いて調べる姿が見られました。



生活科

豊かな生活を創り出す子ども

本校生活科では、「豊かな生活を創り出す子ども」の育成をめざして授業づくりを提案してきました。今年度は、体験や学びを通してもった願いが、授業や単元を繋いで、連続していくことができるような活動に重点を置いて授業づくりをしていきます。

具体的な活動の充実

子どもの願いは、児童を取り巻く環境、子どもの興味関心によって変化します。子どもの願いに沿った活動、生活化していくことのできる活動になるよう、生活科で取り組む活動は、

子どもの興味・関心に沿っており、場・教材・対象が身近であること

活動の中に適度な障壁があり、対象に自分たちが直接働きかけることで変化が見られること

自分だけではなく他者とかがかわることができること

を重視していきます。

伝え合いの充実

どの場面においても、その場に応じた表現や伝え合いが行われています。教師側が意図的に設定した場だけでなく、活動しながら子ども同士で会話していることも含まれます。「花の種を植えたい」この思いに対して、「どこに植えよう」「ふわふわの土がいいよ」「みんなが走って入ってこないところがいいね」「周りを囲って看板を立てておこう」というように、活動しながら考えたり、友だちのアドバイスに耳を傾けたりします。気づきを自分の中だけで終わらせるのではなく、表現したり伝え合ったりすることでその気づきが質的に高まり、新たな願いや活動を創り出すきっかけとなります。



総合的学習

探究的な学習を通じた自他尊重の態度の育成

本校総合的学習では、児童一人一人の成長意欲に基づいて様々な探究活動を行い、それらの活動の中で、児童の自他尊重の態度を育成することを目標としています。

探究的な学習

平成20年に告示された小学校学習指導要領において、「総合的な学習の時間」では「探究的な活動」に重きを置くことが示されています。

課題の設定

情報の収集

分析・理解

まとめ・表現

上記の4つの過程を繰り返すことで、子どもたちが自ら主体的な学びを創ることができるように学習を展開していています。

自他尊重の態度の育成

本校の総合的学習では、各学年の活動において専門家の方々や地域の方々など様々な方々にご協力をいただきながら学習を進めていきます。それらの方々との関わりの中で、あるいは児童同士の関わりの中で、相手の立場に立って考える態度を育成していきたいと思えます。同時に自ら主体的に行動し、活動の中で自らの成長を実感する中で自尊感情にもアプローチしていくことができると考えています。



教科掲示板

ここでは本校各教科の研究活動の現状について、毎号で簡単にご紹介したいと思います。今回は、主に各教科の研究テーマのご紹介です。

国語科

国語科では、「表現のしぐみ」に着目した読みをしています。また、読みの力を発揮する場を設定し、単元で学んだ読みの力を子どもたちと教師で共有し、自らの国語的発見を「国語の知恵袋」に書き溜めていくことで、読みの力を低学年から高学年にかけて螺旋的に積み重ねていけるよう取り組みを続けています。

社会科

「問題意識を自ら連続・発展させる子どもを育てる授業」をテーマに学習しています。6年生では歴史学習において、それぞれの時代を学習した後、民主・平和・国際の視点でふりかえり、これまでの時代と比較して考えています。それにより、自ずと「前は だったのに、なぜこうなってしまったのか」「次はどんな世の中になっていくのかな」と問題意識が生まれてくるようになりました。

算数科

「子どもの算数的な気づきでつなぐ授業づくり」をテーマに、子どもの「気づき」を引き出して、いかしていく授業づくりをめざしています。

算数のよさや楽しさを感じられるよう、子どもがたくさんすることに気づけるような場面をつくっていきたいと考えています。

理科

学びの過程に着目して本年度の研究をスタートさせています。

子ども自身が自らの学びをとらえる姿、子どもが推進力となって学びを創る姿をめざし、1学期には2つの研究授業を行いました。10月は3年生「電気で明かりをつけよう」の研究授業を行います。

生活科

「今日すること、もう決まっている?」「ばっちりー!」

生活科の時間のはじめには、教師と子どものこんな対話が起こっています。

「野菜を育てるために」「秋を楽しむために」それまでの取り組みをふりかえり、次のめあてをもって取り組む。自らの学びを創り続ける生活科学習、めあての設定も大切な場面です。

音楽科

7月には地域のまつりに合わせて「リズムを感じて《だんじりばやし》をつくろう」の実践を行った。平野に根付いた音楽を扱うことで、子どもの生活経験が活かされ、学習に取り組む意欲につながった。このような意欲を基盤とし、「学びを創り続ける子」を育むことができるように日々研究を進めています。

図画工作科

図画工作科では、子どもたちが、自らの感性を働かせながら表現や鑑賞の活動に取り組み、学びを深められる授業づくりに取り組んでいます。

材料・用具と関わりながら「いいこと考えた」と思いついたり、イメージを広げたりできるように、指導・支援していきます。

体育科

体育科では、「学び合い活動」を通して、学びを創り続ける子どもを育てる授業づくりに取り組んでいます。子どもたちが運動になじみ、めあてを明確にし、進んで取り組む中で得た学びを、交流し、共有していく中でより学びが深まり、さらなる学びが創りだされていくと考え、研究をすすめています。

道徳

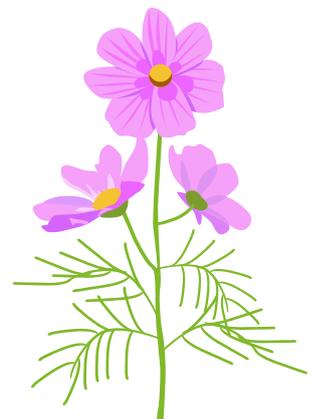
1年生では、文章を書くことにも慣れ、道徳の時間に書く活動を取り入れています。友だちの考えを取り入れて、自分の考えを整理します。主に、中心発問と終末の振り返りで取り入れています。また、書くことで発表にもつながり、話し合い活動での意見交流も多様な意見が出やすくなります。

総合的学習

10月より新たな活動「平野ハートフルプロジェクト～心のぬくもりを感じよう～」をスタートさせます。「心が温かくなる時はどんなときか」について、「課題の設定」「情報の収集」「分析・理解」「まとめ・表現」という探究的な学習のサイクルをふまえて、活動を進めていきたいと思います。

外国語活動

1学期は自己肯定感を高めるために、自己紹介ビデオからプロモーションビデオの作成を行った。児童たちは、I can ~.を使って、たくさん自分のできることや得意なことを言えるようになった。そこでの自信を元に、2学期は、自分の思いをジェスチャーのみで相手に伝えるという会話を試みたいと考えています。



Open-Cafe

7月22日(月)・8月30日(金)の二日間、「Open-Café(オープンカフェ)」を開催しました。Open-Caféは本校の教員が講師となり若手や新任の教員、または教員を目指す学生を対象にした研修会(公開授業・授業づくりのレ



クチャー・先生の悩み相談室Q&A)です。両日とも、たくさんの先生方に来ていただき、本校の授業づくり「学び合い」のある授業について共に学び合うことができました。

教育実習(9月2日~9月27日)

9月2日(月)~9月27日(金)の約一ヶ月間は、教育実習(基本実習)の期間となっています。本年度も、大阪教育大学の約40名の学生が本校で、授業づくりや学級経営について学びました。お昼休みなどに時間には運動場で子どもたちと元気に遊ぶ姿も見られ、学校全体が活気づきました。最終週には、それぞれ研究授業を行い、一ヶ月の学びの成果を発揮することができました。



教員研修



附属平野小学校では各教科の研究のみならず、教員全体研修として様々な学びの機会を作っています。今年度の夏季休業中にも以下のような研修に取り組みました。

(1) 2月の研究発表会に向けての研修

これまでの本校の研究の在り方や流れを、過去の総論を読み解くことで再確認し、本年度の研究の方向性について協議しました。

(2) ユニバーサルデザインの授業に関する研修

平野五校園共同研究で進めているユニバーサルデザインの授業の視点について協議しました。

(3) 人権研修

本年度のテーマ「いのち」の授業実践案について意見交流し作成しました。2学期における系統性のある実践となるよう協議しました。

(4) ICT研修

タブレット型コンピュータの有効活用について、実際にiPadを使って研修を行いました。授業における活用方法だけでなく、職員間のネットワーク利用などについて学ぶことができ、教員のメディアリテラシーを高める機会となりました。

(5) Q-U研修

学級集団の状態や、子どもの意欲・満足度を測定するQ-Uについて研修しました。児童一人一人の実態を把握し、適切なアプローチをするために協議をすることができました。